

おいでよ、ふるさとの森！

今年3月に環境省から「自然共生サイト」に認定された「自然学習園ふるさとの森」。ここは、開発などによって失われていく郷土の自然を再現し、自然の豊かさと大切さを後世に伝えていくことを目的につくられました。

今月号は、ふるさとの森と自然学習への活用事例について紹介します。



「自然学習園ふるさとの森」
藤原町市場 493-1

自然みつけ隊 (自然学習室)



隊長 矢崎 充彦

隊員 坪井 諒介

いなべの自然をぎゅっと集めた場所

ふるさとの森は、約1ヘクタールの敷地に4つのエリアがあります。その内の1つ「ロックガーデン」は、藤原岳の石灰岩地形を再現し、まるで山頂にいるような自然の雰囲気を感じられます。高所でないと出会えない生き物も、ここで気軽に観察することができますよ。また、ふるさとの森は季節ごとに大きく姿を変えます。春には早春植物が咲き、夏には多くの昆虫が見られ、秋には落葉樹が紅葉し、冬には野鳥が訪れる——。そんな自然のサイクルを感じられるのが、ふるさとの森の魅力です。

いなべ10のコーナー「いなべの自然みつけ隊」

毎回驚きがいっぱい！



市の情報番組「いなべ10」で月1回放送中のコーナー。自然みつけ隊が、ふるさとの森を中心に動植物の生態などを紹介しています。

過去の放送分は動画集から
見ることができます▶



環境省
九州地方環境事務所
自然環境調整専門官
小林 悟志さん

▼自然共生サイトに認定された場所

自然共生サイトは、地球温暖化や生物多様性の減少に対応するため、自然環境や生物多様性の保全が図られている場所です。2030年までに国の土地の30%以上を自然保護エリアにする「30by30」という国際目標があり、日本でも民間の土地を活用して自然共生サイトとして認定する取り組みが進んでいます。

ふるさとの森が自然共生サイトに認定された理由の一つは、移植された植物だけでなく、希少種が存在していることでした。また、通常は枯れてしまう高山植物や石灰岩植物が、この森ではしっかりと生育している点も注目されました。ここでは、どんぐり、照葉樹、落葉樹や高山植物を一度に見ることができるので、野外学習の森としても高く評価されています。



森の職人 佐藤の
植生へのこだわり

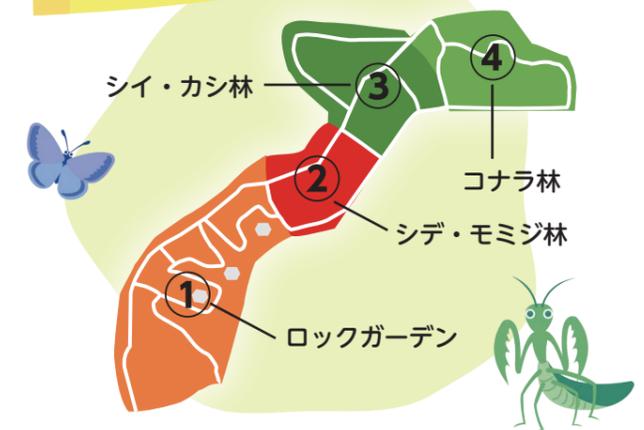
自然学習室
佐藤 俊介

ふるさとの森では、いなべ市の自然を保護するために、特に植生の保護に重点を置いています。

ここは単に昆虫採集を行う場所ではなく、自然のままの植生を観察し、学べる場所として整備しています。ですが、何も手を入れず放置すると、やはり荒れてしまうのも事実。毎日巡回し、気候に合わせて水やりなどを行うことで、自然を保護しつつ、見応えのある景観を作り出しています。

特に気を使うのは草抜きの作業。植物の知識がないと、どれが残すべき草花かどうかの判断が付きません。そのため外部に任せずに、私たち職員が一つ一つ手作業で行っています。大変な作業ですが、藤原岳に昔あったイブキザサなどの貴重な植物の生育場所にもなっているので気は抜けませんね。

ふるさとの森マップ



①ロックガーデン
藤原岳の石灰岩地帯を再現。石灰岩を好む日本固有種のセツブンソウや藤原岳に生育する植物が見られます



②シデ・モミジ林
藤原岳の標高700m前後をイメージした落葉広葉樹林。シデやカエデの仲間から構成され、秋の紅葉がきれいです



③シイ・カシ林
神社などで見られる常緑広葉樹林。一年を通じて日光があまり入らないので、他エリアと比較して地面の草花がまばらなのが特徴

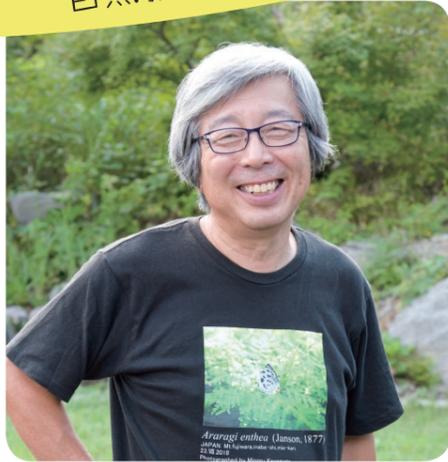


④コナラ林
コナラを中心にした雑木林。薪炭を作るための「薪炭林」と呼ばれ、かつては生活に欠かせない存在でした

ふるさとの森での自然学習

ふるさとの森は、自然教室や藤原小学校の授業で利用されており、子どもたちが自然と触れ合いながら、実際の体験を通じて自然の大切さや魅力を学んでいます。

自然教室



三重昆虫談話会 河本 実さん

標本づくりは自然観察の第一歩

私は講師として、ふるさとの森で蝶の観察や採集、標本作りを教えています。参加者はまず、ふるさとの森を巡りながら、蝶の生態や植物との関係を観察します。例えば、アゲハ蝶は特定のコースを飛ぶ習性があり、見ていると同じ場所に戻ってきます。捕まえようと追いかけても、そこで待ち伏せして捕まえてみよう、と生態を学びながら採集します。

こうして捕まえた蝶で標本を作るのですが、ここで大切なことは対象をじっくりと観察すること。「羽の模様はどうだろう」「胴体は意外と毛むくじゃらだな」などと蝶の構造や特徴に気づくことができます。そうすると、今までただの蝶だったのが、「アオスジアゲハ」や「キアゲハ」といった名前を持った存在として認識できるようになります。その蝶の生態や好きな植物など、さまざまな情報が頭に入るようになり、自然の見え方が変わるのを実感できるでしょう。

採集をして標本を作るということは、自然観察の第一歩であり、生物研究の基盤となります。標

1.2. 自然教室の様子 3. 自然科学館には河本さんが作成した標本が並んでいます



本は、それが「いつ、どこに、どれだけ存在したか」という証拠となり、将来の研究や環境保護に役立ちます。アマチュアによる標本作りは日本の昆虫学を支えており、それらの記録と標本は図鑑やレッドデータブックの作成に欠かせない基礎データとなっているのです。

蝶の標本作りを通じて昆虫の世界の面白さや奥深さに触れ、そこからさらに身の回りの自然環境に関心を持つ人が増えるとうれしいですね。

自然科学館ではさまざまな教室を開催しているよ！

自然科学館
ホームページ▶



藤原小学校



鷺見 夏生先生 伊藤 紗也子先生

藤原小学校では1、2年生の学習の一環として、ふるさとの森での自然学習「春みつけ」「秋みつけ」を行っています。今は教科書やタブレットを使って動画や詳しい情報を知ることができる時代ですが、子どもたちには自然を肌で感じて体験し、感性を育ててほしいという思いで行っています。

現地を訪れると、「ヤマビル注意！」の看板を見て虫を怖がる子どもたちもいます。ですが、同行する自然学習室の職員さんが、実際に塩を使ってヤマビルを駆除する方法や、安全な触り方などを見せてくれて、子どもたちは「思ったより怖くないかも」と感じたようです。また、珍しい「旅する蝶」がとまる花についても教えてもらうなど、教科書では知り得ないことを体験できて楽しかったです。子どもたちがこうした経験を通して、自然との関わり方や触れ合う楽しさを感じてくれることがうれしいですね。



1、2年生の感想

- ・どんぐりがたくさん落ちていて面白い！
- ・授業がきっかけで家族と行くようになった！
- ・カブトムシやセミが見つかったよ！
- ・ミミズとヒルの違いが分かった！
- ・見たことない実や栗の実がたくさんあった！
- ・サルのふんは木の実がいっぱいでびっくり！

▼春みつけと秋みつけの様子



藤原小学校 5年生
佐藤 奨晟さん

佐藤さんは、昨年の第45回児童生徒自然科学作品展で、30種類以上のトンボの標本を作成し、優秀賞を受賞しました。幼いころから昆虫が好きで、「飛んでいる姿がとてもカッコいいから」と熱心にトンボの採集をしています。この夏休みも、市内を巡りオニヤンマやマルタンヤンマなど数多くのトンボを捕まえました。

「テレビやゲームよりも、自然の中で昆虫を捕まえたり体を動かしたりの方が好き」と話す佐藤さん。虫取りは何が捕まえられるか、季節や天候によって変わるので、その毎回の出会いが楽しいと魅力を語ってくれました。



受賞したトンボの標本

ゲーム感覚で自然探索！ イナッチュクエスト

「イナッチュクエスト」は、スマートフォンアプリを使っていなべ市の自然を観察・記録する、市民参加型の生物調査プロジェクトです。ゲームのように楽しみながら自然への関心を深め、次世代に自然を引き継ぐことを目的としています。



step1

いきものコレクションアプリ
「Biome」を端末にインストール



step2

いなべ市のさまざまな場所
(山・森・河川など)に行く

step3

クエスト内容に沿って
生き物を撮影して投稿！



体験者の声

清水 茉莉さん

高野 有佳さん



清水 詠大さん 近藤 柊汰さん 高野 聖菜さん

生き物の知識がなくても楽しい！

スマートフォンを通じて簡単に生き物の生態を知ることができるので、親子で楽しみながら学べると感じました。実際に川で捕まえたヤゴを撮影した時に、成体になったトンボの写真が出てきて驚きました。素人にはヤゴの段階で何のトンボになるのかわからないので、こういった機能で知識の差が埋まるのはとても便利です。

また、子どもたちの中には虫取りが好きな子もいれば、実際に捕まえるのは少し抵抗感がある子もいます。そんな子にとっても、スマートフォンで撮影するだけで生き物の生態が分かるので、より安心して自然と向き合えるアプリだと感じました。



1



2



3



4



5

1.3.5. 市と京都産業大学とバイオームが共同で行ったイベント「川で遊ぶ日」。多くの親子が自分たちで捕まえた生物をアプリで調べていました 2.4.Biomeの体験会の様子

プロジェクトの企画者



京都産業大学大学院
辻野 建貴さん

自然と関係を持ち続けられるように

僕は子どもの頃、自然が大好きでした。よく外で生き物探しをしていましたが、中学生や高校生になると部活や勉強で忙しくなり、段々と自然と触れ合う機会が減っていきました。そんな経験から、大学では市民科学に基づいた生物調査に注目し、どうすれば人と自然が関わり続けられるかを研究するようになりました。

イナッチュクエストは、いなべ市と京都産業大学と株式会社バイオームが協力して行う市民参加型の生物調査プロジェクトです。スマートフォンを使って楽しみながら生物調査を行い、自然を身近に感じてもらうことを目指しています。生き物に対する知識の差があっても、アプリがその差を埋めてくれるので、子どもたちが生き物に興味を持つきっかけとしても効果的です。特にふるさと森は、エリアがはっきりと分かれていて、さまざまな生き物を見つけやすい面白い場所ですね。大人も子どももゲーム感覚で楽しんでもらい、いなべ市の持つ貴重な自然資源への関心を深めてもらいたいです。

2024秋



ビギナークエスト達成!

2024秋



エキスパートクエスト達成!

秋のイナッチュクエスト

9月16日から開始した秋のイナッチュクエスト。「ビギナー編」と「エキスパート編」の2つがあり、ビギナー編は、いなべ市の生き物3種類を撮影するお手軽な内容です。エキスパート編では、撮影するのが指定され、秋らしい生き物やいなべ市特有の生態系に焦点を当てたクエストが楽しめます。

クエストをクリアし、アンケートに回答した人には缶バッジをプレゼント!

みんなもやってみてね!



詳細はこちら▶



ふるさと森は、自然の豊かさを体感し学べる貴重な場所です。

自然の大切さを感じながら、四季折々の美しさを楽しみに、ぜひ足を運んでみませんか?